

「敵基地攻撃」を日米合同で推進する岸田政権の「国家安全保障戦略」など安保3文書は、憲法9条を投げ捨て戦争国家へ突き進むものであり、戦争止めるまで闘おう！

2023年1月16日 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟



「不屈」
№584付録
高知版№429
2023.2.16
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
高知県本部

発行責任者
森岡 幸一
TEL・FAX
088-841-0075

日米両政府は11日、米ワシントンで外交・軍事担当閣僚の安全保障協議会（2プラス2）を開催した。日本政府が「国家安全保障戦略」など安保3文書を改訂し敵基地攻撃能力



2022年9月に県庁前で開かれた安倍国葬反対のスタンディングの様子

「反撃能力」の保有を明記したことを踏まえ、日本における最適化された米国の戦力態勢が、南西諸島を含む地域における強化された自衛隊の能力及び体勢とともに同盟の抑止力及び対処力を実質的に強化する」としている。これは、沖縄を含む南西諸島を対中国を念頭に置いた戦争拠点「捨石」とするものである。

岸田政権は、国会審議をはからずに国家安全保障戦略を閣議決定した。

「反撃能力」＝敵基地攻撃能力の保有は、そもそも歴代政府の憲法解釈である「専守防衛」をかなぐり捨てて戦争する国づくり」に突き進むものであり、憲法と立憲主義を破壊するものであることを、共同声明は立証した。敵基地攻撃の能力の保有は、日本を守るものではなく、米国が行う戦争に集団的自衛権を発動して、自衛隊が米軍と肩を並べて闘うことであり、

日本の本土が攻撃される全面戦争にまき込まれるものである。敵基地攻撃能力を保有するとは、米国製長距離巡行ミサイル・トマホークなどの大量のミサイル配備を計画し、5年間で43兆円を明示している。

政府の軍拡財源論は、庶民増税やくらしの予算
先人たちの不屈なたたかいに学んで、「ぶたたび戦争と暗黒政治許すな」の旗を掲げて闘うわが国賠償同盟は、戦争ストップめざして全力をつくそう。

「兎」にちなんで2

高島満兎について

先日、筆者は本誌にて「2022年は寅年、2023

年（まこと）である。

022年は寅年、2023年は卯年、つまり虎から兎にバトンタッチする年だからこそ、高知県出身の活動家・右建虎兎栄（いしたて・ことえ）を売り出していかがか」という内容の記事を投稿した。書いたはよいが、どのように売り出していくか悩みどころだが、もう一人、兎」にちなんでPRしたい人物がいる。福岡出身で、反戦平和を貫いた女性活動家 高島満兎（たかしま・

満兎は、1909年10月、福岡県久留米市にあった酒蔵業の家に生まれた。その後、久留米高女へと進学し、1926年には日本女子大学に入学。この在学中、学生社会科学連合会（学連）に参加し、卒業後は日本共産青年同盟（共青）に加盟した。この共青こそ、現在の民主青年同盟（民青）の前身であり、今年はその結成から100年に当たる。

【2面につづく】

満兎は、どのような過程を経て、革新思想に至ったのであろうか。それは、労働農民党の活動をしていた兄・日郎（じつろう）の影響が大きいようだ。日郎は、1927年、党活動の中で権力に捕縛されたが、決して転向することなく、留置場の壁に労働者、農民を苦しめる天皇制を打倒せよ」と書いた。結果、不敬罪で鹿児島刑務所に投獄となり、仮出獄した翌1932年3月、24歳の若さで急逝している。

日郎が投獄中の1930年4月、大学を卒業した満兎は、上記の通り共青に入り、同年7月頃には、その機関誌「無産青年」の編集局で組織部を担当した。各地に同誌の配布網を広げることが、その任務である。頭脳明晰で責任感も高かった満兎の指導で、千葉医大の共青班は、75人ほどの「無産青年」読者会を組織するに至った。彼らは、国鉄千葉機関区に「帝国主義戦争反対」のビラをまいたり、共青のポスターを貼ったりしながら、天皇

24歳の若さで亡くなった
高島満兎



主権の暗黒政治に反対したのである。

読者網を次々と開拓する満兎の活躍は目覚ましく、東京周辺だけでなく山梨や奈良にも地方配布の連絡を組織していった。読者会を媒体として共青の組織を構築していく満兎は、学生たちから、ドイツの革命運動の指導者であるローザ・ルクセンブルクにちなみ、「ローザ」と呼ばれていたという。

1931年9月、満州事変が始まり、日本帝国主義による中国東北部への侵略が進められる中、満兎ら共青のメンバーは、この戦争の不義理を見抜き、精力的に活動した。この頃、満兎は共青千葉県委員会の実質的責任者として活動していたが、結核を罹患し、入院す

ることとなる。だが、途中で病院を抜け出して活動し（この行為は、決して褒められるものではないが）、1932年に日本共産党に入党。同時に、共青中央の農民対策部長となり、長野などで共青再建のために奔走した。

だが、すでに治安維持法が改悪され（1928年に最高刑を死刑と定めた）、権力の目も厳しくなった折の1933年3月、満兎は、東京・新宿の借家で特高警察の襲撃を受けた。特高は、共産党中央に潜伏していたスパイの手引きで、深夜の時間を狙って突入してきたのである。逃げようとした満兎は、2階から飛び降り、骨盤を複雑骨折する。そして、下半身を動かすこともできないまま、その翌年7月、兄と同じく24歳の若さで亡くなった。

筆者は、先日、満兎の生まれた福岡県を訪ねた（ただし、博多駅周辺のみで、満兎の故郷である久留米市には行かなかった）。同県は、右翼的な勢力が強い土地柄と

聞く。明治時代に同地で結成された日本最初の右翼団体「玄洋社」の影響か、それとも元寇の舞台となった地だからか、その理由は把握していないが、同地で革新運動を展開していくことは、昔も今も労苦が絶えぬことだろう。思えば、90年代から現在に至るまで多くのネッ

ト右翼を育てた漫画家・小林よしのり氏、在日コリアンの排除を露骨に訴え「ヘイトスピーチ」という言葉を広めた活動家・桜井誠氏、自民党の大物として今なお改憲論や靖国史観を牽引する政治家・麻生太郎氏らも、福岡県出身だ。

彼ら右派勢力の台頭は、今や政治、文化、メディア等の世界に浸透し、とりわけ安倍政権以来、日本は確実に「いつか来た道」を歩んでいる。昨年末、福岡市出身のタレント・タモリ氏は、あるテレビ番組で「2023年は、新しい戦前になるんじゃないですかね」と発言した。この認識は、決して大げさではなく、日本を覆う具体的

な脅威」も示せぬまま、防衛費を増大させた岸田政権らによって具現化されている。

こういう時勢だからこそ、この福岡の地で、そして全国で高島満兎を売り出していくべきではないか。昨年は、反戦や女性の権利向上を訴えた活動家・伊藤千代子が映画化されて話題になったが、満兎の人生も多くの方々に知っていただきたい。国賠同盟の高知と福岡の両組織で何か企画ができないものか、思案中である。

（森本琢磨）

【参考資料】

・「だたかい、生きぬいた青春戦前の女性革命家の生涯と民青同盟の歴史」民主青年同盟中央委員会・「じんぶん赤旗」ホームページ 反戦平和の信念を貫いた共産党員、高島満兎とは？」

https://www.jcp.or.jp/akahata/aik4/2005-08-20/2005082012faq_01_0.html

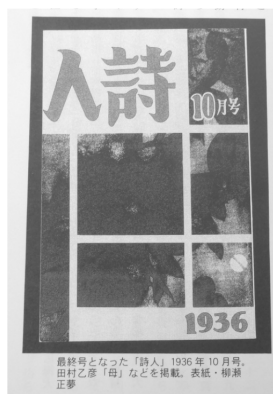
故猪野 睦氏 作品

埋もれてきた群像より

詩人の時代

『詩人』は新井徹の『詩精神』をひきついで一九三六年一月から十月号まで十冊が文学案内社からでた。貴司山治と遠地輝武が編輯にあたった。頁数も『詩精神』の百ページ前後にくらべて『詩人』は百三十ページ以上を確保し、舞台をひろくした。表紙は柳瀬正夢だった。それだけでは『戦旗』の表紙や『無産者新聞』のカット、全農運動、水平運動のポスターなど手がけてきた日本プロレタリア美術家同盟にいたねじ釘の両家で知られていた。絵や装頓の署名にねじ釘の頭を示す●のマークを使った。合法・非合法のなかで仕事をこなした両家だった。

『創刊辞』には『詩精神』の果たした積極的役割はわが『詩人』のそのまゝ継承するところとなることをかかげ、続々と生れてくる勤労階級の若き詩人の育成」と真に新しい生命ある日本詩の実現を期にしたものであった。



最終号となった『詩人』1936年10月号。田村乙彦「母」などを掲載。表紙・柳瀬正夢

最終号となった『詩人』1936年10月号。田村乙彦「母」などを掲載。表紙・柳瀬正夢

『創刊辞』には『詩精神』の果たした積極的役割はわが『詩人』のそのまゝ継承するところとなることをかかげ、続々と生れてくる勤労階級の若き詩人の育成」と真に新しい生命ある日本詩の実現を期にしたものであった。

『詩集』、中国青年詩集、デミアン・ベードヌイ紹介、ソヴィエト作家大会紹介、地方詩壇の動きという具合に、問題のひろげ方、とらえ方をした進歩的だった。総合雑誌をつくりあげていった。創刊号はうり切れた。

作家同盟時代の詩人に加えて、新しく登場するそのあとの詩人がまじり、いつせいに強い花の開いていくにぎわいがあった。しかし五月号の『編輯後記』に「五月の歌」それをわれ、は忘れてゐるのではない。僕らの唇はその歌への憧れにふるへてゐる」とかかねばならないように、この年の三月、メーデー禁止通達がでてきていた。『詩人』刊行をめぐる状況がきびしくなってきた。

年ぶりの活字であった。獄中でバイロン、ハイネの亡霊と問答を重ねながら非転向の論理を押しだしていく詩であり、韜晦さゆえに官憲の眼をくぐりぬけた詩であった。

大江鉄磨は一、四、六月号にプロレタリア短歌、高知詩壇の報告、詩夜の運搬場で」をのせ、広海大治は四月号にサガレン開発現場を告発していくサガレンの浮浪者」、八月号に北海道開拓農民の押しひしがれながらしぶとく生きる農民運動家を長編詩『黒い流れ』にかいた。倉橋潤一郎も小評論を寄せ、大石喜幸も詩夜の中で」をかき、倉橋顕吉も風間歌で詩花に愛を」をかいた。

ほとんど毎号、詩と評論をかきついだ。

この『詩人』誌上で、日本プロレタリア作家同盟高知支部時代の詩人、植村浩、広海大治、田村乙彦らの力量をもった作品が、ふたたび成熟した日本プロレタリア詩のピークをかざるにふさわしい作品として登場した。いずれも弾圧後、かく場所をもつことができなかった。それに、作家同盟時代より一足おくれで詩の出版をした世代の詩人たちが、植村浩らのあとを継ぐように育っていた。大江鉄磨であり、倉橋潤一郎であり、倉橋顕吉、大石喜幸らであった。

だが『詩人』の廃刊は一九三六年十月だった。同時に刊行予告のでた文学案内社の『九三六年詩集』も未刊におわった。高知ではこの二ヵ月後の十二月五日人民戦線事件一斉検挙があり、そのなかに植村浩、田村乙彦も連座させられていた。

○女性部の広場

命をかけた意思を受け継いでいきたい

岸田首相の施政方針演説がビニールハウスのラジオから流れてきた。「この国会の場において、国民の前で正々堂々議論をし、実行に移して参ります」との言葉に唖然とした。

国会でまともな議論をしないし、閣議決定で進めてきたではないか？そして、外交には裏付けとなる防衛力が必要で「武器を持った外交は戦争だ。何ということをするのか？」

子ども子育ての当事者である、お父さん、お母



宮田志野さん

さん、子育てサービスの現場の方、若い世代の方々の意見を徹底的にお伺いすることから始めます」とも。今まで声を聞いてこなかったのか？日本全国の皆さんが輝ける、未来に希望を持てる日本をつくる」というフレーズを二度も言ったが、こんな方針では輝けないし、希望も持てんがよ！と、怒りでシシトウを収穫する

手元が狂いそうになった。嘘を滔々と語る首相に任せていたら、国は滅びてしまう。憲法を変えて戦争する国に突き進む流れを止めたい。そう思う時、弾圧で犠牲になった伊藤千代子さんたちの事が胸に受かぶ。命をかけた意思を受け継いでいきたい。

(須崎市議・

宮田志野)

映画「わが青春つきるとも」 今後は高知市以外での普及を

1月幹事会報告

☆同盟員 263名

井上淳一さんが死亡、ご冥福をお祈りします

☆署名

(個人) 335名

(団体) 2筆

☆伊藤千代子「高知市再

上映 報告(森岡)】

1月8日(日)自由民権記念館にて高知市二回目の上映会を行いました。正月明けの厳しい日程でしたが、団体、個人の協力で会場には102人の方が観にきて下さいました。

前回と比べ感想アンケートは減少しましたが、真っ正直な生き方に感動が広がっています。

今、岸田内閣による暴走。閣議決定でアメリカと一体となって軍拡を押し進める今の政治に戦前の戦争が重なって見えてきます。伊藤千代子の生きた時代を繰り返させてはならないと強く感じました。県下の上映会は2回目となり、今後は高知市以外で普及に取り組みたいと考えています。

尚、幹事会で県内・獄死者の墓前祭と上映会が出



3月幹事会

日時 3月16日(木)

14時

場所 平和資料館 章の家

来ないかの意見が挙がっています。

☆女性部 青年部

☆財政

会費、書籍、年賀広告、募金を2月幹事会に

○編集後記

昨年末の4閣僚更迭に続き、今度はLGBTへの暴言で秘書官を更迭。今回は、人権感覚を問われる深刻な事態に…。(M)